資料７

中央教育審議会
大学分科会（第 110 回）
Ｈ２４．１０．２９

大学教育改革地域フォーラムの結果等について

（目　次）

第 13 回　　金沢大学　　・・・１頁
第 14 回　　京都華頂大学・華頂短期大学　　・・・５頁
第 15 回　　山形大学　　・・・９頁

第13回大学教育改革地域フォーラムの結果

【名　称】大学教育改革地域フォーラム2012 in 金沢大学
【日　時】平成24年9月28日（金）14：00～17：00
【テーマ】・学生の主体的な学びの確立と学修時間の確保
　　・金沢大学の学域学類制と自学自習システム
　　・高大接続の円滑化と学びの質的転換
【形　式】パネルディスカッション
（モデレーター）　青野　透氏　　（金沢大学大学教育開発・支援センター教授）
（パネリスト）　常盤　豊 氏　　（文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当））
林　勇二郎 氏　（前金沢大学長/中教審大学分科会委員）
黒田　壽二 氏　（金沢工業大学学園長・総長/中教審大学分科会委員）
村澤　勉 氏　　（石川県高等学校長協会会長/金沢泉丘高校長）
学生パネリスト5名　（金沢大学3名、金沢工業大学1名、金沢星稜大学1名）
【参加者】253名（学生：120名、大学関係者（教職員）：133名）

【パネリストの主な発表内容】

○　人材育成は社会から付託された大学の使命である一方、学生は学ぶ権利を持ち、それに伴う責任と自覚から主体的な学びということが導かれる。大学の使命と学生の学びはセットで捉えられるべきものであり、それに加えて社会による動機付けが重要な要素となる。
○　国際比較の視点に立った学位に基づく学士教育課程・プログラム構築が課題であり、それを実行する教員の意識改革がもっとも重要。
○　「何を学んだか」も重要だが、「何ができるようになったか」がより重要。社会人として必要な「学士力」の修得が産業界から要請されている。大学はその基礎を学ぶ場であり、学生は好奇心・批判的な視点をもって学ぶ姿勢が求められる。
○　知の時代、グローバル化に対応した大学ガバナンスの確立が必要であり、それが教育のマネジメント強化につながる。現在大学ポートレートも準備が進んでおり、今後、大学による比較可能な情報公開が重要となる。
○　積極的な学びのためには、学生が動きやすい環境をつくり、フットワークを軽くすることが重要。様々な人と出会い、考えを共有することが大学での学びの実質的な内容である。
○　主体的学びの実現のためには、学内環境の充実が重要。例えば、米国大学のように図書館の開館時間を長くするなど学生がもっと使いやすくし、学生同士の議論の場を整備し、課題解決型の学びを実現できるようにすべき。
○　課外活動を経験する機会を充実させることも重要。他大学との単位互換制度の充実や、美術館等学外の機関との連携により、学生が自分の専門外の分野でも他大学の学生などと一緒に学ぶ社会的体験を積むことが大切。
○　主体的な学びのためには、入学後早期に現場の体験が得られれば、その後の大学生活にもよい影響があると考える。また、Eラーニングの活用による時間に縛られない学修環境の整備も重要。
○　学校での講義は知識のみならず、自身の関心を広げる場。限られた時間でも研究に携わり自分なりの課題を設定していくことが重要。
○　教員の中には授業外では学生にかかわりたくないという先生もいる。教育の質向上には教員の意識改革が重要。
○　地域でのボランティア活動などの課外活動への参加を通じて、主体的に考えて行動することを学んだ。大学での学びだけではなく、課外活動は地域の方とのコミュニケーションを通じて自分が知らない社会を知ることができる貴重な経験となる。

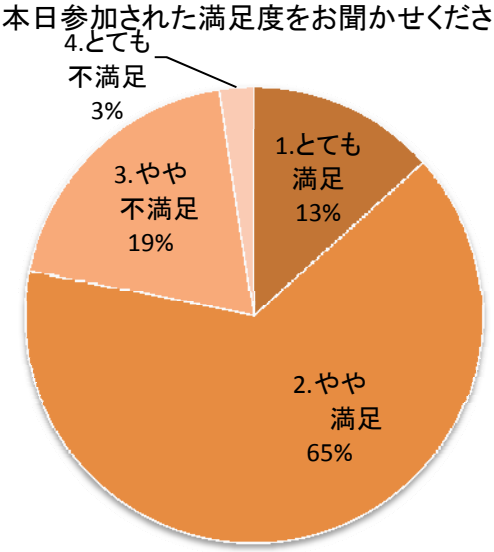
【会場参加者も含めたディスカッションにおける主な意見等 】

○　高校と大学の学びの違いは、高校では生徒の学習分野選択の幅は広くはないが、大学では自分が興味関心を有する分野を選択し、自ら学びを深めていく点にある。
○　一年次から専門的なことを学びたかったが教養科目ばかりで学修意欲があがらなかった経験から、一年次からもっと専門分野を学べる仕組みにしてほしい。
○　シラバスの充実は学生の学修時間の確保に密接に関連する。授業の目的や求められる学修時間が示されていれば、学生が何をどのくらい勉強すればよいか明確になるので、学修時間の確保につながるのではないか。
○　学生一人一人が、学生ポートフォリオを活用することにより、授業内外の時間の使い方を見直し、担当教員のチェックを受け、学生の適切な時間管理の習慣づけにつながっている。
○　本フォーラムはキックオフであり、このような機会をいろいろな場で実施してほしい。冒頭映像の中で問題提起されていた、「学生に強い負荷を与えるだけでなく、如何に強い動機付けを与えるか」という指摘は重要であり、学生に現場を早く経験させるなど動機付けを意識したカリキュラム作成を考えていくべき。
○　学生も大学を変えていく重要な主体であり、学生の立場からも大学の環境づくりに積極的に取り組んでいってほしい。
○　会場アンケートでは、70%の学生が主体的に考える力がついたという結果であったが、主体的に考える力とは基礎学力の裏づけがあって考える力のことであり、学生には常にそのような意識を持ってほしい。
○　大学としては、大学での学習環境の整備が重要であり、学生が行動範囲を広げていけるような仕組み・施設整備等の環境づくりが必要。
○　学生がもっとカジュアルな形で議論できる場が必要であり、そのような場で今回のテーマについて多くの学生ともっと議論し、周りの学生にも主体的な学びを促すような取組みを続けていきたい。
○　自分の専門外の知識や経験の必要性を痛感している。理系でも文系、文系でも理系の科目を受講できるようにしてほしい。
○　主体的な学びの充実のためには、学生一人ひとりの意識付けが重要であり、学生が早くから問題意識を持つためにも、高校生向けのフォーラムも開催してはどうか。

【学生を含めた参加者を対象とした主なアンケート結果※】

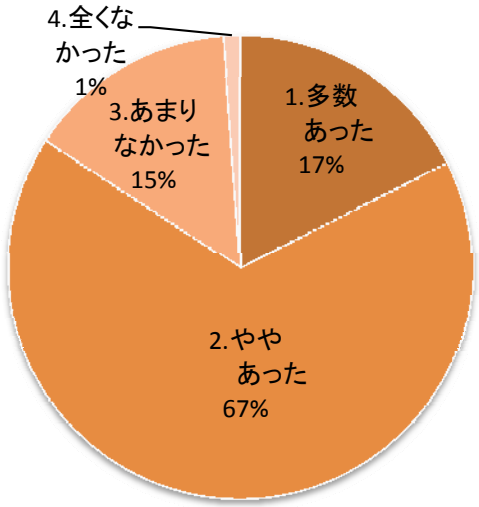
※回収率＝約72%(183人/253人)

Q.本日参加された満足度をお聞かせください。



満足度：78%

Q.フォーラム参加の発言・コメントの中に「ためになった」「参考になった」ものはありましたか？



参考になるコメントあり：84%

「大学教育改革地域フォーラム　2012　in　金沢大学」
～学生の自学自習を確立するために、いま大学に求められていること～

日　時　　平成２４年９月２８日（金）　14：00～17：00
場　所　　金沢大学自然科学大講義棟大講義室（１階）
対　象　　教職員、学生、一般
主催等　　金沢大学・文部科学省共催、大学コンソーシアム石川後援

この度、中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が出されました。社会が急激に変化し、将来の予測が困難な時代にあって、生涯学び続け、主体的に考え、変化に適切に対応できる人材が必要とされ、このような人材を育成するためにも大学教育の質的転換が求められています。本学は大学憲章に、「学生の個性と学ぶ権利を尊重し，自学自習を基本とする」ことを謳い、平成２０年には学域学類制度を導入しましたが、これはまさに学生の主体的かつ能動的な学修を目的としたものです。本フォーラムでは、学生の代表を含めたパネリストの発表と、フロアをも交えた討論をとおして、学生の主体的な学びの確立と大学教育の改革に向けて、議論を深めていきます。

プログラム

13：30　　受付開始
14：00-14：05　開会・主催校挨拶　　：中村信一（金沢大学長）
14：05-14：20　映像上映「今、問われる『大学での学び』」
14：20-15：30　パネルディスカッション（第１部）
　モデレーター：青野 透（金沢大学大学教育開発・支援センター教授）
　パネリスト：
　　① 常盤 豊（文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当））
　　② 林 勇二郎（前金沢大学長／中教審大学分科会委員）
　　③ 黒田 壽二（金沢工業大学学園長・総長／中教審大学分科会委員）
　　④ 村澤 勉（石川県高等学校長協会会長／金沢泉丘高校長）
　　⑤ 学生５名
　トピック：　1）学生の主体的な学びの確立と学修時間の確保
　　2）金沢大学の学域学類制と自学自習システム
　　3）高大接続の円滑化と学びの質的転換
15：40-15：55　休憩
15：55-16：45　パネルディスカッション（第２部）
　・パネリストによる討論
　・クリッカーを用いたフロアからの意見聴取
16：45-16：55　モデレーターまとめ
16：55-17：00　閉会挨拶・閉会　　：中村慎一（金沢大学教育担当理事・副学長）

（総合司会：上古殿学生部長）

大学教育改革地域フォーラムin金沢大学（9/28）の様子

壇上の様子

パネリスト発表の様子

学生パネリストの発表の様子

クリッカーを使用している学生の様子

会場の質疑応答の様子

第14回大学教育改革地域フォーラムの結果

【名　称】大学教育改革地域フォーラム2012 in 京都華頂大学・華頂短期大学
【日　時】平成24年10月6日（土）13：30～16：30
【テーマ】学修時間の確保と成績評価の在り方
【形　式】パネルディスカッション

（モデレーター）	中野　正明	（京都華頂大学・華頂短期大学学長、中央教育審議会大学分科会臨時委員）
（パネリスト）	常盤　豊	（文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当））
	大塚　雄作	（京都大学高等教育研究開発推進センター長）
	原　清治	（佛教大学教育学部長）
	森永　教子	（京都中央信用金庫上堀川支店長）
（総合司会）	吉田　博子	（京都華頂大学 現代家政学部長）

【参加者】202名（学生：80名、大学関係者（教職員）：70名、その他：52名）

【パネリストの主な発表内容】

○　変化の激しい、将来予測が困難な時代においては、答えのない問題に対して試行錯誤を繰り返しながら挑戦することや、協調性などを身に付けることが重要。

○　主体的な学びの確立のためには、ただ学修時間を増やせばよいのではなく、学修の質・教育の質の向上が必要であり、カリキュラムの体系化に向けた取組や教員の教育力向上のための取組などについて、PDCAサイクルを回していくことが重要。

○　この答申を議論の出発点とし、教員、学生、企業関係者、地域の方々などと議論を深めていただきたい。

○　正課の学修に限定せず、サークル活動等を通じた、仲間と共に経験することによる学修や、学修意欲の高い社会人との触れ合い等を通じた、正課外の学修も重要。

○　答えのない問題に対し、創造力を備え、自ら解を見出す主体的な能力を身につけるためには、至れり尽くせりの教育プログラムを用意することが良いわけではない。

○　学生のモチベーションを高めるには、成績だけではなく試験の答案用紙を返却するような、フィードバック情報の活用が効果的。

○　学生は多様であるので、一律のFDではなく、多様な授業方法を模索するためその都度教員も自己研鑽を積むべき。

○　大きい講義室では、マイクランナーの大学院生TAの配置や、モニターの活用など、授業方法に工夫をし、学生の参加意識を高めることが効果的。

○　「出席を取らない」、「課題がない」、「試験がない」などの授業が一部依然として人気がある一方で、「厳しいけれども満足度が高い」授業に対しても評価が高い傾向もある。

○　授業履修生の成績優秀者をTAとして採用するなど、経済的支援の手法も、学修への動機付けの一つとなり得る。

○　インターンシップや実習など、キャリアに関連した現場での「気付き」が大学における学習意欲を高める。

○　企業で働く際には、顧客との信頼関係を築くことが最も重要。幅広い業務知識に加え、教養・品格など、プラスαの素養が求められる。

○　コミュニケーション能力が低いと感じる新入社員も多いが、これは学生時代に幅広い世代の人と付き合ってないことが原因と思われる。最近では、先生からの一方通行な授業のみならず、生徒が主体となって発表する授業やグループ討議なども充実しているだろうから、積極的に参加してほしい。

○　上司・先輩の叱責は、部下を愛し、育てたい気持ちの表れであるが、今の若者は怒られる経験が少なく、精神面が弱いと感じる。学生時代に打たれ強くなってほしい。

○　社会人には自己研鑽の時間が十分にあるとは言い難いが、世間の変化に合わせて継続的に学ぶ姿勢が養われていることが重要である。

【会場参加者も含めたディスカッションにおける主な意見等 】

○　教員免許や資格取得を目指す学生は、受講講義数も多いため、主体的というよりは、必要な履修をこなす姿勢になりがち。また、アルバイトをしている学生も多く、そのような環境下で学修時間をいつどのように確保するかが論点。アルバイトも社会勉強であり、一概に否定されるべきものではなく、時間配分の自己管理が重要。

○　学生の学びは講義における学修だけではない。サークル活動や、ボランティア活動を通じ、仲間と協力する経験をし、責任感・コミュニケーション能力が育まれる。

○　プログラムとして成り立つべき正課の学修とは別に、正課外で身に付けた力が、社会に出る際に企業の求めている力としてマッチして役に立つことが大いに考えられる。

○　大学の授業の問題は、学生が授業を受ける意義を感じていない点。単位取得のために授業を受ける学生も多く、授業に関係がないことをする学生や寝る学生もいる。学生は能動的に学ぶ意識を持つことが大事であり、教員は、学生の意見を聞きながら授業を行ったり、学生に授業の一部を担当させてみたり、双方向の参加型の授業とすることが大事。

○　進路を早期に確定させる必要はなく、教養を深める意味でも、単位取得が目的化する科目が中にはあってもいいのではないか。一方で、意識を高く持ち、集中して学ぶ授業も当然必要であり、メリハリや時間配分の管理が重要。

○　学生が主体的に学ぶには、魅力的な授業が必要。大学で学ぶ理論と、学校現場での実践が一体化した、スパイラル化した授業を提案したい。主体的に、向上心を持って学べると思う。

○　主体的な学びのためには動機付けが必要。実生活で活きることや、学術分野の中での新しいことの発見に出会う中で、動機付けがなされ、学びたいという気持ちになると思われる。理論と実務の架け橋となるような教育を進めていくことが重要。

○　就職活動の早期化が問題視されているが、一方で、就職内定後の在学期間に合わせて、大学が、コミュニケーション能力などの社会人基礎力の教育をしてはどうか。

○　答案やレポートを返却してもらい、良い部分、悪い部分を認識することが、学びの姿勢につながるのではないか。GPAの仕組みや成績評価に対する異議申し立てなどについても、入学当初に案内されるだけでは、よくわからない。

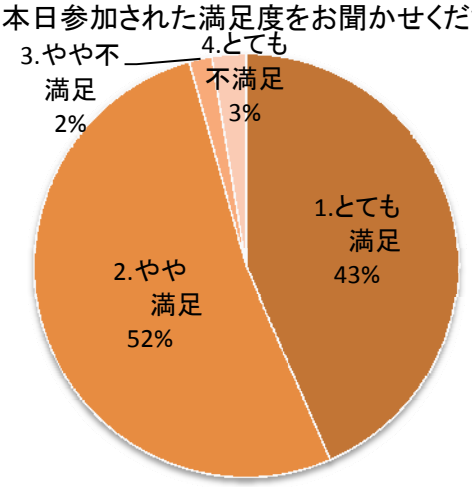
○　シラバスにおいて、個々の授業がどう体系化されているのかというマッピングが見えないのは問題。

○　教員は学生に教育をしようと考えるけれども、人間力・総合力を培うためには、主体的学びの姿勢を確立するための教育を考えなければならない。学生が自ら学ぶ環境を設定することが教員・大学の勤めであると感じた。

【学生を含めた参加者を対象とした主なアンケート結果※】

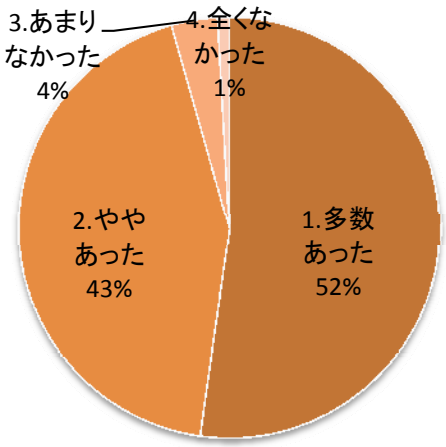
※回収率＝約60%(121人/202人)

Q.本日参加された満足度をお聞かせください。



満足度：95%

Q.フォーラム参加の発言・コメントの中に「ためになった」「参考になった」ものはありましたか？



参考になるコメントあり：95%

大学教育改革地域フォーラム 2012in 京都華頂大学・華頂短期大学

テーマ「学修時間の確保と成績評価の在り方」

◇日時　　平成２４年１０月６日(土)　　１３：３０～１６：３０
◇会場　　京都華頂大学　華頂ホール　　（所在地：　京都市東山区林下町３丁目４５６）

◇目的・趣旨

知識基盤社会の構築に欠くことのできないのが将来を担う大学生の学修時間の増加・確保であります。中央教育審議会大学分科会大学教育部会の審議のまとめにある「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」には、十分な質的な充実を伴った学修時間の増加・確保を始点として、学生の主体的な学びを確立する必要があるとされており、そのためには授業時間帯の学修にとどまらず授業時間帯以外の時間外学修の充実を図り、学生の学修到達度、学修成果を測定するなど多元的で質の高い成績評価の導入が求められます。今回のフォーラムでは、中央教育審議会でとりまとめられた答申を踏まえながら、学修時間の増加・確保と成績評価との関係性について討議し、学士課程教育の質の向上を促す機会といたします。

◇プログラム

総合司会　　吉田博子　　京都華頂大学 現代家政学部長
モデレーター　中野正明　　京都華頂大学・華頂短期大学 学長、中央教育審議会大学分科会臨時委員

13:30　開会　総合司会
　主催者挨拶　学校法人佛教教育学園　理事長　中井真孝
　　文部科学省大臣官房審議官　常盤　豊
13:40　映像上映　―今、問われる「大学での学び」―
14:00　パネルディスカッション
　総合司会　　モデレーター、パネリスト紹介
　パネリスト発表
　　常盤　豊　文部科学省 大臣官房審議官（高等教育担当）
　　大塚雄作　京都大学高等教育研究開発推進センター長
　　原　清治　佛教大学教育学部長
　　森永教子　京都中央信用金庫上堀川支店長
　討議　フロアからの意見
16:20　総括　モデレーターまとめ
16:30　閉会　総合司会

主催：　京都華頂大学･華頂短期大学
共催：　文部科学省
後援：　大学コンソーシアム京都、日本私立大学協会関西支部
　　近畿私立短期大学連合会、京滋私立短期大学協会、京都新聞社